



花かご便り 2021年5月号

作品出展者(敬称略、掲載順)

【俳句】 ペドロニ三枝、ワイルドマン年子、
翁長なおみ、ドンゴン巴器乃、ツルー本間玲子

【エッセイ】 ワイルドマン年子、中山まり子



【俳句】



ペドロニ三枝 (自由律俳句)

春冴えや深山(しんざん)の足音寂(じゃく)と消ゆ

去りがたき白滝のしぶき持ち帰る (選)

春寒や泡ふく白滝に襟を引く

この3句は、ある時期1人になりたくて春の雪がまだ溶けない早い時季、夏秋によく Yosemite に行っていた頃の句です。

黒瞳の白鷺立つ湖にわれも立ちたき

白鷺はいつも私の心の奥にあって、Oakland Lake Merritt や Alameda の浜の湿地で会えるのが嬉しい。





ワイルドマン年子



咲く花の 孔雀サボテン 目がさめる

朝起きて見ると、孔雀サボテンの花が見事に咲いていたので、目の覚める思いで感動する。



風鈴草 長々と咲く しなやかさ (選)

しなやかそうに見える花だけど、長く咲き続けてくれる花に驚きを感じる。



こちよき 香りただよう ジャズミンよ

香りの強いジャズミンは庭一ぱいにその香りをただよわせ、心地よい気分になさされる。





翁長なおみ

子供の日 祝う息子は はや四十路(よそじ)

母は、私がいくつになっても嬉しそうに、「子供の日、おめでとう」と祝ってくれました。私も息子にそれを言うと、複雑な顔をします。わかってください、親の気持ち。

母の日や 施設の母へ ラブレター (選)

今年 102 歳の母は、窓の外いっぱい広がる海のそばの施設にいます。1 日のほとんどは眠っていて、それでも、「お母さん、なおみよ、わかる？」というとき、目を大きく開けて、「ああ、なおみちゃん」と答えてくれますが、すぐに目をとじてします。きっと、それだけでも大変なエネルギーを使っているのだと思います。親の愛の深さと尊さを最近深く思えるようになりました。



ドンゴン日器乃(みきの)

花菖蒲 端午の節句 武者(むしゃ)かぶと

菖蒲の花を見て、昔息子の為に飾った端午の節句の兜を思い出した。

雨よふれ 雨の神様 五月晴れ (選)

「雨が降るように」という私のお願いを、神様は聞いてくださいません。お水が値上がりです。





ツルー本間玲子

寒い夜 おでん楽しむ 孫たちや (選)

先日シアトルに行ってきました。あちらはまだ寒い日が続いているので、夜の食事におでんを作りました。食欲旺盛の孫3人、大人加えて全部で9人分なので、息子が買ってきた大きな土鍋が溢れるくらい沢山具を入れました。おでんは、孫たちにとって初めてでしたが、皆すごく喜んでくれました。

咲き競う むらさきアヤメ 雨のあと

雨の後、シアトルの娘の庭に沢山植えてあったアヤメが一斉に咲き出して、本当に春を感じさせてくれました。

春うらら 競って歌う フィンチ達

春の晴天下、赤い胸をしたフィンチが高い枝にとまって、春が来たことを謳歌しているように、小さい体に似合わぬ、大きな声でさえずりあっていました。



【エッセイ】



「母の日に見たアヒルの親子」

ワイルドマン年子

私は、現在ベイエリアのサンロレンゾの公園の近くに住んでいる。通称アヒルの池（ダックパウンド）といっている。母の日いつものように主人と公園を散歩した帰りの道すがらの出来事である。アヒルの親子が母親を先頭に7羽のアヒルの子を引き連れてぞろぞろ道路の真ん中を歩いているのを見つけた。可愛いなと思うと同時に10年前の惨事を思い起こした。



10年前、私は同じようなアヒルの親子を信号待ちしているときに見つけた。その時は非常に早く走っている道路をアヒルの親子がぞろぞろ道路を横切ろとしていた。びっくりして車を横わきに止めて、その親子のアヒルを何とかしようと思ったけど、あっという間に跳ねられてしまった。母親のアヒルは死んでしまった。とんでもない惨事を目の当たりにした。アヒルの子は母親の近くでウロウロして、悲しそうであった。どうしてよいかわからず躊躇して心配そうに傍観するだけだった。その時、勇敢なアメリカの女性が自分の車を路上の真ん中に止めて、車から降りるなり「ストップ」と必死に早いスピードで走っている車を止めてアヒルの子を救った。その時のアメリカ女性の勇敢さに驚かされた。

その光景で思ったことは、戦争で親を亡くした子供たちの姿が鮮明に私の脳裏に焼き付いた。だから戦争などしない平和の世の中にしないといけないのだと思わされ、アヒルの親子を救えなかった自分の勇気のなさに後悔の念がその時残った。

そして、今日また再び同じような光景に偶然出会った。思わずその時の後悔を繰り返さないように、とっさに道路の真ん中でアヒルの親子が車に跳ねられないように車を見かけたら、ストップのサインを出してアヒルの親子を無事ダックパウンドにガイドしながら、帰るべきところに送り届けた。幸いレジデントの道路だからゆっくり走る車なので、ほとんどの車はすぐ止まってアヒルの親子に気が付いてくれた。アヒルの親子の安全を確かめることができ、ほっと安心した。

母の日に、アヒルの母親を導いて無事にアヒルの池に帰せたことの喜びが湧いてきた。同じ母親として、必死に子を引き入る母親のアヒルの姿は、「何故か私と似ているな」と母の日の意義を感じる良き日であった。





アマゾン・ドット・コムで物を買うようになって何年になるのか、もう忘れてしまった。そのくらい今、アマゾンは私の日々の暮らしに沁みついている。最初は好奇心で何か小さいものを買った。すると、なんの問題もなく配達され、詐欺にもあわなかったので小さな安心感が生まれた。それから、もう1つ何かを、そしてもう1つ。買うたびに、安心感アマゾンへの信頼感へと変わっていった。そのうちプライムメンバーになれば1年間無料で配達されると知り、試してみた。すると、買い物をすればするほど得するような不思議な気持ちになった。無料期間が終わった後、抵抗なく有料の正式メンバーになった。年会費は毎年、遠慮がちに少しずつ上がっていったが、商品の安さ、配達の便利さに比べればなんということはないように思えた。何ととってもアマゾンは便利だ。何かを探して、あの店、この店と足を棒にして探しまわらなくてすむ。車の渋滞にも会わなければ、不機嫌なキャッシャーの顔も見なくてすむ。しかし、悪い癖もついた。近所の店で売っているものとの値段の違いをつい、チェックしてしまう。消費者としては、より安く、より良い品を選びたいというのは切実な願いなのだ。だが、よく考えみれば、我田引水、そんなに消費者に一方的に都合のいい甘い話がこの世の中あるわけがない。何かがおかしい、という小さな囁きが心の奥から聞こえてくる。だが、日々の生活の忙しさにそんなことはすぐかき消されてしまう。それよりも、小さな子供のいる家庭でも、身体の不自由な人でも、車を運転しない人でも、辺鄙なところに住んでいる人でも、家において、皆自由に買い物ができるようになったのだから、なんとも便利な世の中になったものだと、思うようにした。

去年のコロナ禍のロックダウンでは、外には行けない、人とも接触してはいけない、お店も閉まっているという閉塞感の中、アマゾンでの買い物は私の秘かな楽しみにさえなった。それにしても、この誰も予測しなかった天災にアマゾン社はなんという巡り合わせをしてしまったのだろう。この1年、以前にも増してその売り上げは伸びに伸びたそう。しかし、倉庫で働く人や配達する人たちの待遇は決してよくないそうだし、価格競争に負けて閉鎖したり、倒産していく店も相次いでいる。また、この自由競争の経済社会で、なぜアマゾンに並ぶ通信販売の会社が他にでてこないのか、考えるとおかしいことばかりだ。

この何かがおかしいという感覚は、今では不気味さに変わりつつある。最近のことだが、コーヒーを飲むときに使うクリーム入れの容器が壊れたので新しく買いたしたが、近所のお店ではどうしてもみつからない。コロナ禍で一時的に流通に影響が出ているのかもしれない。そこでアマゾンで探してみると、ちょうどよさそうなのが見つかった。値段は14ドル。送料は無料(?)。早速オーダーする。しかし、2-3日後に着いたものは、思っていたより大きすぎた。商品の明細は間違っていないのだが、私がきちん

と確認していなかったのだ。しかし、それでも返品できるというので、返品手続きをとったら驚いた。何と、「返金はするが、品物を送り返す必要はない」というのだ。つまり「返品にかかる郵送料のほうがコスト高になるから、何もしてくれるな」ということなのだろう。実はこれと同じようなことが、別の日に Target のオンラインで 10 ドルくらいのもので買った時にも起きた。「お金は返すが商品は返さなくてよい」というのだ。「もし返したければ、近くの Target に持っていくように」とのこと。タダで物をもらうのはどう考えても気持ちが悪いので、私はわざわざ近所の Target の窓口に戻しに行った。その帰り道、また、あの声が聞こえてきた。「何かがおかしい。そして、その片棒をお前もしっかり担いでいる」と。



……………編集後記……………

日本の 5 月はゴールデンウィーク、通常なら新緑の美しい中どこも行楽客でにぎわいますが、コロナの第 4 波に見舞われた今年は、緊急事態宣言の下自粛された方も多かったと思います。バイエリアでは、幸いワクチン接種も進み、徐々に規制緩和が進んでいます。

イーストベイのある住宅街で、悠々と爽やかな風になびいている大きな鯉のぼりを見ました。本物の大きな鯉のぼりを見たのは何年ぶりでしょうか。今月の花かごは、アヤメ、端午の節句・こどもの日、母の日などにちなんだ 5 月ならではの俳句やエッセイもあり、今回も心温まる会話が弾みました。皆様にも楽しんでいただけたら幸いです。 (まり W)

……………

~END~

『花かご』は、2017 年 4 月に始まった「日本語で書くことを楽しむ会」です。毎月第 2 水曜日の午後に集まり(昨年春からはズームで開催)、俳句、川柳、詩、エッセイなどの作品を読みあい、交流を楽しんでいます。ひまわり会会員はどなたでも参加できます。感想やお問い合わせは、himawarihanakago@gmail.com までお気軽にどうぞ。

